～欣浄寺法語メール～２０１８年１月～

「襲名　襲命」

　歌舞伎役者の市川染五郎が名代を引き継ぎ十代目松本幸四郎を襲名しました。その披露の席で父九代目幸四郎が「襲名の『名』は『命』で、名前や芸だけでなく人間の魂を受け継ぎ受け渡すこと」と語っておられたのが印象に残りました。歌舞伎役者としての命とはどういうものかは想像もつきませんが、ある光景が思い浮かびました。

　九代目幸四郎さんの先々代は「弁慶といえば七代目」と語り継がれる名役者でしたが、三重県東員町のご出身です。今から２０数年前九代目幸四郎さんが祖父の故郷を訪ね墓参された時、お手次ぎのご住職とともにお勤めをしました。墓前に進み出られた幸四郎さん

が焼香し合掌されます。しばらく合掌されたままで礼拝（ライハイ、頭を下げること）までずいぶん時間をかけられたのですが、ほどなくそれはお墓の向こう側で写真を撮っている新聞社のカメラマンを気づかってのことだと分かりました。引き続き名古屋御園座など関係者の方々の焼香が続き全員が椅子に着席後まだ読経中でしたが幸四郎さんが自席で静かに手を合わされたのでした。私の目にはカメラマンを意識されたのは歌舞伎役者としての、自席では役者の肩書がとれた一人の人間としての合掌のお姿と写りました。

　襲命の原点が欣浄寺からほど近い東員町長深（ながふけ）であり、地名の通り長く深いいのちの歴史を感じた一幕でした。